

タカラコラボラボ 第5回・第1期第5回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)4月19日(金) 18:30~19:40
開催場所	第2庁舎 会議室A・B
次 第	1 開会 2 新委員の紹介 3 今年度の事務局体制 4 議事 (1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について 5 その他 6 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、大関委員、上田委員、岡田委員、橋之爪委員
開催形態	公開(傍聴人1名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は1名であることを報告した。

2 新委員の紹介

大関委員よりご挨拶いただいた。

3 今年度の事務局体制

事務局から、今年度の事務局体制について説明を行った。

4 議事

(1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア 別紙について、70周年記念補助金の応募または選考の中で、⑥の層で新たに見えてきた団体はあったのか。

イ (事務局) 140を超える応募があった中で、70団体を採択し、70団体近くの落選があった。採択された70団体については順次事業を実施していただいている。その中で自治会とまち協で14団体、その他、元々定期演奏会や絵の展示をやっていたなど数十年の歴史のある団体や今回をきっかけにつくられた全く新しい団体等様々である。落選した団体についても同じような傾向がある。既にしっかりと活動している団体とまだまだこれからという団体もあるので、その団体にも(今回検討しているイベントについて)情報提供を行うなどすれば、

関心を持っていただけるものになっていくと思う。

ウ 質問した意図としては、今回新たにつくられた団体のどういう活動に対してアプローチするのかを考える上でのヒントを得ることができればと思った。

エ (事務局) 活動の内容というところになってくると思うが、例えば採択された事業であれば、ドローンを使って親子のふれあいを図りましょうという事業や服の交換会の事業などが新規事業としてある。既存事業の中には、以前から活動はしていたが、補助金をきっかけに事業の拡充をしていこうという事業もある。事業分野も様々で、文化関係の事業もあれば、スポーツの事業もある。市ホームページに掲載しているので一度見ていただけたらと思う。

オ (会長) 別紙に「つながり」とあるがどのような意味か。

カ (事務局) 例えば、まちづくり協議会であれば、組織の在り方は地域によって全然違ってくるが、市民活動団体が実際にまちづくり協議会の会議に参加をして情報共有を行ったり、まちづくり協議会の子育て部会や福祉部会などの部会と連携して活動を行うなど、地域活動団体と何かしら接点を持っている。団体として独自で活動は行うが、地域活動団体とも連携して活動を行うことをイメージして「つながり」という言葉を使った。

キ (会長) 今回はイベントの実施方法について、意見交換を行う。資料にある①～③の案から決めてもいいし、3つの案を修正するということもいいと思う。

①の事例発表について、前回の議論の中では、活動を自分の言葉で伝えていくという意見が出てきていたと思う。難しい説明ではなく、体験を話していただく事例発表をしていただけると共感を呼ぶことができる、「地域活動をやりたい」と思ってもらえるという意見が出ていた。②のワークショップも意見を聞いたり、一緒にその場で成果物を作成する等、様々な方法がある。ワークショップの方法も議論いただければと思う。③の相談会は、普段聞けないようなことを気軽に話ができ、いろんな話につながる機会になると思う。

ク 最近 YouTube で他の地域の活動の様子が投稿されていたり、ネットでプレゼン資料が公開されている。こういうものは興味がある方は見ると思う。地域活動に対して意識が高い方の例になると思うが、そういったコンテンツを見る人もいるのかもしれないと思うと、その方をターゲットにすることもありだと思う。宝塚市の活動で「こういう活動もあるんだ」と知ってもらう機会になるのであれば、事例発表の方法として、緩いのもありだと思うが、がつつり地域活動をされている内容の事例発表もあっていいのではないか思った。「ぜひ一緒にやりましょう！」というメッセージを伝えるということもやりたいと思っている。70周年記念事業でも聞いただけで面白そうな事業があって、なぜ事業を始めたのかということを詳しく聞きたいと思った。

ケ (会長) 私も YouTube とかよく見るので、そういう活動事例を見るような形でしっかりとプレゼンをしてもらうようなこともありだと思う。70周年記念事業の応募の動機や活動をし始めたきっかけを、語り掛けるように話ができれば結

構ためになると思う。

- コ 考えていたことはク委員とかなり近いと思った。事例発表の中に少しイケてる要素やかっこいい要素、今までやってなかったような要素があって、イベントに参加した人がやる気になってもらえるといいと思う。事例発表をしていただく方の中には 70 周年記念事業補助金が落選し、事業を実施できなかった人もいと思うので、実施した事業の内容や、やりたいと思っていたアイデアを含めて発表いただいて、アワードのように一番を決めて、70 周年記念事業の余ったお金を渡してあげてもいいのではないかと思った。
- サ (事務局) 残った予算を渡すことは出来かねる。採択事業の情報は公開できるため、ホームページで公開する予定である。例えば、採択事業の団体の中から事例発表をしてほしい事業や話を聞きたい事業を選んでもらうことは可能であると思っている。しかし、落選した事業の情報は勝手に公開できない。イベント実施の周知連絡を落選した団体に行くことは問題ない。
- シ 私が思っていたのは、70 周年記念事業に関わらず、普段の活動をプレゼンしたい方、アイデアの共有をしたい方等を募集して発表をしていただくイメージである。
- ス (事務局) 70 周年記念事業の採択団体だけではなく、落選された団体とも今後何かの形でつながることができると思っている。落選された団体の方とお話する中で、10 万円の補助金を使ってイベントを実施し、自分たちの活動を知ってほしいという思いがあったのが伝わってきた。その方たちに 10 万円を交付できないのは非常に残念に思った。市の後援は落選されても使用することができることをお伝えするとすごく感謝され、ぜひ後援名義を使用させてくださいと言っていただけた。その他にも民生委員の方にお繋ぎさせていただいた団体もある。市ではできなくても民生委員の方に知っていただくことでまたそこから新たにつながりが生まれるかもしれないと思い、様々な団体とつなぐことを行っている。できたばかりの小さな団体にはもっと仲間を増やすにはどうすればいいだろうという声があったので、詳しい方におつなぎして相談にのっていただいた。
- セ ⑥の「地域団体・市などとながりがない」という方は自治会に入っていない、まちづくり協議会で活動していないという方々が該当すると思う。別紙に「市制 70 周年記念の補助金をきっかけに」と書いてあるが、この補助金は一過性のお金であり、毎年継続して交付されるお金ではないので、私の団体も申請をしたが無理なことは計画していなかった。この⑥の団体が事業を実施した後、TaCoLAB のメンバーのところに来てプレゼンをしてほしい。どんなことをやったのか、どういうきっかけで活動を始めたとか聞いてみたい。⑤の団体については実績報告書を見たら実施内容等は把握できると思うが、⑥については小さな団体が多いと思うので、事業の実施結果や動機を報告してもらい、⑥の団体のアイデアを TaCoLAB のメンバーがお聞きするのが一番いいと思う。TaCoLAB の

メンバーは経験がある人がたくさんいるため、報告してくれた団体のためにもなる。一番気になったのは採択された70組は市にどういう報告をするのか。活動内容の発表をする場を作るのが一番いいと思う。今のうちに報告の機会を設ける旨を70組に通知していたほうが良いと思う。

ソ （事務局）募集要項に実施報告の方法についてはすでに示しているので、活動内容の発表を依頼することは追加の依頼になるため強制はできないと思っている。活動内容を知りたい方がいるので協力してくれませんかをお願いをして、協力していただける団体に発表をしてもらおうというスタンスになると思う。事例発表を行うイベントを考えているので、皆さんぜひ参加しませんかという周知方法になると思う。採択された団体に限らず、落選した団体にも周知することは十分可能だと思う。補助金をきっかけに新しいつながりを作ることができたらいいと市も思っているし、補助金の申請をしていただいた方もそういう考えをお持ちだと思うので、事例発表や意見交換の場に来てもらえるのではないかなと思う。

タ まずは、採択団体へイベントの案内を出せばいいと思う。落選した団体はお金がないから事業をやめてしまったところも多いかもしれないし、自分たちの資金で何とかしようという団体もあると思うが、まず採択された団体に活動内容をプレゼンしていただけないかと案内するのがよいと思う。相談会など難しい言葉を使うと尻込みするので、知恵を拝借したいという内容で案内を出していただければと思う。我々もそういうところからヒントを得られるかもしれないので、情報を共有しながら実施するのがいいのではないかなと思う。

チ 今のアイデアは非常に面白いと思ってまして、「まちづくりプチビギナー支援を私たちがやりましょう」のような立て付けでやったらおもしろいかもしれないと思った。

ツ （事務局）プレゼンまではいかなくてもアンケートを実施して、良かった点、悪かった点、今後の課題等をまとめるのもひとつ方法だと思う。

テ なぜこういう事業を始めたかということを既存の団体よりも新たに始めた団体に聞きたいと思う。事例発表をしていただくなれば、なぜ事業を始めたのかを発表していただければ、発表をすることによって仲間も集められると思う。今までまちづくりや既存団体に関わっていなかった方が、地域活動をやらなきゃいけないと思って活動を始められたというのは、強い意志がある人であると思う。事例発表をすることによって、今まで既存団体の関わりがなかった、まちづくりをやっていなかった、あるいは関心があってもなくてもしなきゃいけないという方が活動を始めるきっかけづくりになると思う。なぜ補助金の申請したのかが一番知りたいと思う。

ト 皆さんの意見を聞いて全く同意見で、すごくいいと思う。活動を始めてまもない団体がどういう気持ちで、どういう意思で始めたのかというのを聞かせてもえられるのはすごく価値があると思う。その話を聞いたうえで案③の相談会が

あれば、地域活動をしたい方が相談できるのでいいと思った。もし可能であれば、イベントの案内を落選した団体にもしていただければ、イベントを通じてもう一度やりたいと思う団体が出てくるかもしれないので検討して頂ければと思った。

- ナ 皆様のご意見を伺って思ったことがあって、私はク委員がおっしゃっていたしっかりプレゼンするとかしっかり活動している方の話を聞くのは良いと思う。ターゲットを絞って開催するというのを我々の活動ではできていなくて、できるだけ広く間口を広げて活動をやりがちである。人が集まるか分からないがターゲットを絞ってやるというのは面白いと思う。やはり活動されている方から事例を聞くというのは一番やる気が出るのではないかと思いますのですごく良いと思った。相談会については、大きな会場であると発言しにくいし、時間も限られてくると思うので、聞きやすい場所で聞きやすい雰囲気が作れたら良いと思った。
- ニ 実施方法としては、①の事例発表を行い、その後②のワークショップを実施して同じきっかけで活動を始めた人同士で情報共有ができ、仲間もできればいいと思う。相談会の場を設けるのではなくて、ワークショップのグループにTaCoLABのメンバーも入って最後に疑問があれば言えるような雰囲気がいいと思う。最初から相談を受けますよという雰囲気ではなく、ワークショップという小さなグループで話し合う方がつながりもできると思う。
- ヌ (事務局) ③の相談会について、一つのイベントの中で一気にやるという方法もあると思うが、そうではなく、例えば今言っていた流れで、イベントとしては案①②の事例発表とワークショップの組み合わせで実施し、その時にアンケートを準備しておいて、「何か相談したいことありますか」と意見を聞いて、回答があれば別途相談の場を設けるという、二段階に分けた方法もありだと思う。
- ネ (事務局) 新しい活動をどうやって始めたのか、新たな取り組みについて話を聞いて意見交換をしたいという意見だったと思う。また、新しい団体として70周年記念補助金の申請をされた新しい団体が相応しいのではないかというご意見だったと思う。それに見合うような団体を皆さんがご存じであれば、その団体の方に事例発表をしてみませんかと声掛けするのは良いと思う。ただ、皆さんがご存じでない団体の事例発表を聞くほうが楽しいのではないかと思った。実施方法についても、事例発表と相談会をまとめて実施するのか、先ほど申し上げたように、二部制で実施し、相談会では個別で相談できる場を設ける等、実施方法は工夫できると思う。
- ノ がつつり地域活動をされている方の事例発表を例に挙げたが、「がつつり」というのはベテランという意味ではなくて、この審議会での審議事項にもあった「ソーシャルビジネス」という要素も必要だと思う。イベントの目的が『まちづくりに関わる「プレイヤー」づくり』であるため、真剣に取り組む人の話を聞いて

てやる気が出る、モチベーションを上げるというのは大事だと思う。真剣に取り組む人がいるということも参加者に見てもらいたいと思う。ソーシャルビジネスにつながらなくてもいいが、そういった観点も必要だと思う。

- ハ 参加者の中には地域活動への真剣具合が、「私はちょっとまだ軽く考えているな」という方もいると思う。参加の間口をできる限り広げるのか、真剣度をしっかり伝えて一緒に地域活動をやっていこう、やる気をさらにアップさせようということ伝えるかによって、発表していただく方や発表内容も変わってくると思った。

- ヒ (会長) TaCoLAB のメンバーは、案②のワークショップの方法についてはよく知っていていच्छやと思う。例えばこのような方法がある、こういう風に進めたらいいのではないかということはあるか。

- フ 以前お誘いいただき、まち協やその他いくつかのグループがブースを構えて、ボランティアをしたい人と現在活動している人をつなぐという会に参加した。そこに来てくれる人は真剣だが、母数がものすごく少なく、真剣にすればするほど参加者が少なくなり、寂しい感じにはなってしまった。③だけだと参加者が少なくなってしまうと思うので、組み合わせはいいと思う。相談会というよりは、セ委員がおっしゃったように交流会のようなかたちで、グループとつながりを持てるような場になれば良いと思う。

- ヘ (会長) 開催場所も、通りすがりに何やっているのだろうとのぞき込むような場所だと興味を持っていただけるが、閉鎖的な空間だと参加人数が決まってしまうので、通りすがりに興味を持っていただくのは難しい。やはり場所も影響する。実施方法と場所が大事になる。例えば、場所の図面を用意して、会場のレイアウトをイメージしながら実施方法を考えることも一つ方法かと思う。

- ホ (事務局) 場所はまだ決まっていなくて、事例発表を実施するなら中央公民館のホールは使いやすいと思う。オープンスペースということだと、そこで実施する内容はこれから決めていくと思うが、市役所の新しく整備された広場もまだ我々も使用したことはないが使えると思う。オープンスペースを使うなら事例発表とどう組み合わせるのか等を今後検討していかないといけないと思う。

- マ (事務局) オープンスペースを使いたいと思うけれど、気候や気温の対応が難しくなるため、実施時期は検討する必要がある。場所や費用を考えると中央公民館はやりやすいと思う。皆さんからのご意見を聞いて、ある程度でしたら予算も出せるので、絶対費用負担がない場所でないといけないということは思っていない。たくさんの参加者を見込むなら広いスペースが必要になるので、場所が限定されてしまうのは実態だと思う。

- ミ 以前に縁フェスを開催したが、会場には行けない方や事例発表したくても日程が合わない方、プレゼンは難しいという方もいた。そういった方々の事例発表の方法として、イベント会場に活動内容を書いたものを掲示して展示発表のようなこともできると思う。その場に行けない方もいるだろうし、来たとしても

その限られた時間では相談しきれなかったり、最後まで話ができなかったというのはあると思う。縁フェスの際は、メイン会場の他に各団体の活動拠点でもイベントを開催しているというお知らせをして、メイン会場と同時開催という形で行った。そこまでしなくていいかもしれないけど、この団体の方にはここで会える、話を聞けますといったものが分かるようにしていると、イベントに参加された方に地域活動団体とのつながりを持ってもらえる。

ム ミ委員の話を聞いて思ったのが、メイン会場との同時開催は学会でよく実施されている。参加者は話を聞きたいところに行くので、中央公民館のいくつかの部屋を借りてメイン会場をホールにして、その他の部屋で小さなグループでの話し合いをするのも一つだと思う。目的は、地域活動をする人を増やすということなので、関心を持てた、自分もやろう、地域活動に参加しようという風にならないといけない。話題をいくつか準備して、複数の話題から選択できるような方法も良いと思う。

メ （会長）ポスターセッションのような、活動の動機や経緯等を書いた模造紙を展示して、その説明を詳しく聞くというのを10分か15分ごとにチェンジするという、そういう動きのあるものも良いと思う。

モ 以前の縁フェスの際は、まちづくりの内容だけでなく子供が楽しめるスペースがあった。人の動きがある中でそういうブースがあった。ブースやネーミングの工夫が必要だと思う。イベント当日のことではないが、以前にPTAアワードというのを阪神間で実施したことがある。約20校がどんな改革をしたかという内容で発表して、最後に発表内容をパワーポイントにまとめて改めて話を聞きたいという学校があればつながるということをした。イベント後に、発表内容を見ることができるということも必要だと思う。

ヤ 色々な部屋があることで参加者のグラデーションというか、地域活動に対して熱い思いを相談する部屋があってもいいのではないかと考えた。熱い思いの話を聞きたくても中々普段相談できないため、そういう場があるのはすごくいいと思う。地域活動に参加したことない人でもふらっと参加できるような、通りがかりに足を止めてもらえるような一工夫があればいいと思った。

ユ （会長）文化祭とか学祭のようなイメージだと思う。最初参加者が5人とかだと少ないと思ったが、人数ではなくて質。お互いがつながればいいという評価で、人数が多ければいいというわけでもないのではないかと考えた。

たくさんの案が出てきたので、実施方法のアイデアを事務局でまとめていただいて、案を示していただければと思う。

ヨ 皆さんに、そもそも「ワークショップ」というものを企画する目的をお伺いしたい。ワークショップに参加する側は短期論であるから実施するが、こういうことをやっていきたいと思っている方の意図は何かということを今考えている。そういう方々とつながりをもってワークショップを企画している方は何を目的としてやっているのかが疑問である。

- ラ 最初ワークショップと聞いたときに何するの？という気持ちだった。実際に参加していくと、大勢の前では発言しづらいが、少人数のグループになると比較的自分の気持ちを出していける。答える側も答えやすい。グループの親和性というか、そういう意見を交換する中で一体化していくという点がワークショップの利点だと思う。
- リ ワークショップは、ある議題の結論を出すケースとワイワイと話をして終わってしまうケースがあると思う。後者の方は避けたい。ワークショップはファシリテーターがしっかりすることで大勢の前で話をするよりも少ない人数での話し合いになるため話しやすくなる。ワークショップをする目的を明確にして話をしないと、ただ時間の無駄で終わってしまう。ワークショップを実施するならば、目的から外れないようにしないといけない。
- ル (会長) 大学でもアクティブラーニングというワークショップをする人が増えている。学生たちが積極的に発表してそれをまとめるということをよく実施しているが、実施して何なのかというところで終わってしまう。何のために実施するのかというのが明確にならないとやっただけで終わってしまう。この議題についてはまた次回話し合いたいと思う。

3 その他

4 閉会

以 上